



巻頭言 / 地域の信頼・評価を高め、組織体制の新たな一歩を踏み出す	2
高岡理事長叙勲祝賀会盛大に	3
第二愛育園新館完成	3
一津屋愛育園も認定こども園に	3
フィリピン出身スタッフ、介護福祉士に合格	3
ココリス（多機能型事業所）オープン	3
人材育成・研修	4~5
保育新規採用21名対象に新人研修	
京都北部へ来たれ！3施設合同インターンシップ	
先輩からのメッセージ	
地域貢献、子育て支援	6~7
「絵本とともだち」（「絵本通信」）発行	
健康・介護情報を発信「地域だより」高槻けやきの郷	
情報開示（高齢者・保育）	4~10
27年度研修報告／28年度研修計画	
27年度地域貢献事業報告	
27年度事業報告／28年度事業計画	
27年度決算報告／28年度資金収支予算	
トピックス	12



社会福祉法人 成光苑

2016
夏号

虹の上を象におんぶの動物たちがゆく 2階壁面の立派な看板が目印



くるみ小規模保育園では4月、園の2階壁面に園名を大きく表記した立派な看板がお目見え。絵本作家の谷口智則さんが描くイラストは、虹の上を力強く歩く象におんぶされた動物たちです。

同保育園は住宅街にあります。看板のイラストは遠くからでもよく目立ち「くるみ小規模保育園ここにあり」と目印になっています。子どもたちも「ぞうさん!うさぎさん!」と大喜びです。

チームワークで投手戦に奮闘 ～大阪チーム成光苑～ 民間共済会ソフトボール大会



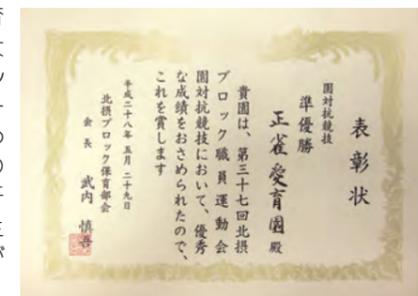
でカバー。1回戦は大差で圧勝。続く2回戦は投手戦となり、最終回に失点を許し惜しくもゲームセット。メンバーはこの悔しさを次回のエネルギーとして奮起を誓いました。

民間共済会ソフトボール大会が5月26日、大阪・舞洲で開かれ、大阪チーム成光苑が参加。試合直前、参加できなくなるメンバーが出て出場自体が危ぶまれましたが、持ち前のチームワーク

大縄跳び130回の大記録で2位 他園の保育士と交流広げる 北摂ブロック職員運動会

北摂ブロック保育部会職員大運動会が5月29日、茨木市中央公園で開催され、北摂地域で働いている57ヶ園、800名以上の保育士が参加しました。今年で37回目。

大縄跳びでは各園5名の代表が2分間跳び回数を競うものですが、認定こども園正雀愛育園は130回を超える大記録で見事2位。ボールを使った競技やベンハーなど団体競技では、初めて顔を合わせる他園の保育士と協力。ともに汗を流すうち団結力も生まれ交流を深めることができました。



【法人理念】

1. 個人の尊厳を旨として、その人にふさわしい最善のサービスの提供に努める。
2. 地域に開かれ、愛され、地域福祉の拠点となる施設経営を目指す。
3. 専門的知識、技術の研鑽に努め、誇れる施設を目指す。

【サービス目標】

1. オンリーワンとナンバーワンを目指す。
2. オンリーワンとはその施設にしかない特色の創造であり、ナンバーワンとはご利用者の処遇の満足度を高めるため、常時積極的な取り組みをすることである。

【老人施設経営方針】

1. 安らぎのある生活と環境を提供し、生きる喜びを創造する
2. 介護機能の多様化を図り、ご利用者に対し、総合的なサービスの提供をする
3. 地域の一員として、地域福祉の活性化に貢献し、超高齢社会のセーフティーネットの機能を発揮する

【愛育園経営方針】

1. 新しい時代に生きる力の基礎を培う。
2. 女性の社会参加の支援に貢献する。
3. 地域子育て支援を積極的に行い、子どもの成長を喜ぶ社会の実現に寄与する。

【発行日】2016年7月

【発行】社会福祉法人 成光苑（理事長 高岡 國士）

〒566-0001 大阪府摂津市千里丘3丁目16-7

TEL.06-6330-3776 FAX.06-6388-9551

URL: <http://www.onyx.dti.ne.jp/~seikouen/>

★「ききょう」の由来

創業者が愛した京都府福知山市は、冷泉を利用して地元に開放するお風呂を作り、当法人として老人施設を初めて開設した地。その福知山市の花である「桔梗」から名づけられました。「ききょう」の花言葉は「変わらぬ愛」「誠実」「感謝」「気品」。

巻頭言



地域の信頼・評価を高め、 組織体制の新たな一歩を踏み出す

理事長 高岡 國士

社会福祉法人成光苑の事業推進にあたり、日ごろから皆様の多大なご協力とお力添えのおかげで無事に新年度を迎えることができました。厚く御礼申し上げます。

介護職員や保育士の処遇改善策が優先施策に

さて、イギリスのEU（欧州連合）離脱問題や参議院選挙など内外ともに激動の時期に突入しました。安部政権ではこれまで、日本経済の再生が中心施策でありましたが、第二アベノミクスとしてこのたび女性の地位向上、待機児童解消、介護離職ゼロなど社会保障改革に力点が移り、「億総活躍プラン」をはじめとする骨太の方針や成長戦略など四つの計画が打ち出され、少子化対策や働き方の改革が進められることになっています。

特に、介護職・保育士の人材確保対策として、介護職員や保育士の賃金引き上げといった処遇改善策が優先施策に盛り込まれ、我々としては注目すべき点であります。一方で、消費税増税が延期となり、財源の確保が懸念されるなど課題も残されており、今後の動向が気になるところです。

「地域福祉の拠点」となる活動が責務

長期にわたり議論されてきた社会福祉法人制度改革が、今年三月の国会審議を通過、改正社会福祉法が平成二十九年四月から施行されることになりました。

した。細部についてはこれから決定されることになっていきますが、大きくは①社会福祉法人のガバナンス（理事・評議員会の機能の明確化等）②経営の透明化（財務諸表・役員報酬の開示、内部留保に対する中長期計画）③財務規律の強化（会計監査人の設置、社会福祉充実残額（再投下財産額）の明確化など）④地域における公益的な取り組み実施の責務（地域福祉の充実、低所得者対応など）を骨格としたものです。

今回の法改正ではこれまでに以上に組織全体としての法人のガバナンスやコンプライアンスの強化が求められており、様々な事業展開を進める一方で、その体制整備が急がれます。

特に、我々は社会福祉法人としての使命を果たすため、制度化されていない福祉ニーズへの対応をはじめとすると「地域福祉の拠点」となる活動を進めていくことが最大の責務であると考えます。全国的にも評価の高い大阪府の社会貢献事業「大阪しあわせネットワーク」には高齢者施設だけでなく、保育施設も新たに参画することとなり、京都府でも地域創生事業「わかプロジェクト」に参画しています。

ワークライフバランスの支援体制検討

今年度の成光苑の事業計画は、以前からも示してまいりました通り、全世代への福祉サービスの提供体制確立のため、四月から障がい福祉事業所を開設、

併せて待機児童解消へのさらなる取り組みとして第二愛育園の増築工事を完了し、この七月から新たな園舎の受け入れが始まります。

現在の最優先経営課題であります人材確保対策では、福利厚生の実質や有給休暇の取得率の向上などワークライフバランスの支援に向けた体制を検討、スポーツや吹奏楽といった趣味を通じた職員間の交流など誇りを感じる働きやすい職場づくりの充実をさらに進めたいと考えています。

また、当法人では外国人労働者の雇用を促進する体制整備を進めてきましたが、EPA（在日外国人が一般の介護福祉士試験に合格しました。従来から準備を進めてまいりました技能実習制度に基づく外国人労働者の受け入れについても、今後の制度の動向を踏まえながら検討していくこととしております。

「ききょう」夏号では二十七年事業報告、二十八年事業計画など法人の活動状況について掲載しています。今年度は改正法導入にあつての大幅な組織体制の整備が求められる一年となります。社会福祉法人としての新たな一歩を踏み出すためにも、これまで以上に地域の皆様からの信頼・評価を高める活動を進め、精進してまいりますので、今後とも変わらぬご支援を頂きますようお願い申し上げます。

サンヒルズ紫豊館が駐車場拡張!!

32台分の駐車スペースを確保

～夏祭りのメイン会場にもなります!～

サンヒルズ紫豊館では4月から約1カ月半かけ、新たに32台分の駐車スペースを拡張しました。これまでスペースが狭く不自由をかけていましたが、今後は無理なく使用していただけるようになりました。

「紫豊館夏祭り」が7月24日に開かれる予定ですが、さっそく広くなった駐車場をメイン会場に開催します。今年の夏祭りは一層盛大になると期待しています。

地域密着型 デイサービスセンターへ移行

吹田竜ヶ池ホーム

吹田竜ヶ池デイサービスセンター（一般）は、定員を20名から18名に変更し、28年4月1日から通常規模型通所介護から地域密着型通所介護へ移行しました。

原則、所在市町村の住民のみがご利用いただけるサービスになりますが、28年3月31日までにご利用いただいていた方の場合引き続き利用することができます。ご利用者、ご家族、地域の方のご意見をしっかりと聞き、地域に根付いたサービスが提供できるように取り組んでいきます。

国際的な 学習環境で学ぶ

ライブ・ステージ 舞夢

～7月から介護職員初任者研修～

ライブ・ステージ 舞夢は7月2日から「グローバル（国際交流）介護職員初任者研修」を開講します。定員20名、土日コースで10月29日に閉講式を行います。

在日外国人のみならず、日本人の方も国際的な学習環境で介護を学び、資格を取得することができます。介護のプロへの第一歩を舞夢から踏み出しませんか!

岩戸ホームの研究に優秀賞 「30分の昼寝を用いて夜間の良眠をめざす」

第11回研究発表会に他法人含め15テーマ参加

第11回研究発表会（成光苑主催）が2月27日、ホテル阪急エキスポパークで開催されました。

今回は他法人5テーマを含め全15テーマの発表が行われ、岩戸ホームが「30分の昼寝を用いて夜間の良眠を目指す」という研究テーマで、成光苑トップとなる優秀賞を受賞しました。岩戸ホームは同年3月末、こうほうえん（鳥取県米子市）主催の研究発表会にも成光苑代表で参加しました。

今回の研究内容や日常の取り組みを通じて得た成果を今後のケアに生かしたいと思っています。



園芸と食育楽しむサクラランボ狩り

くるみ愛育園

くるみ愛育園の園庭に毎年3月、花を咲かせてくれる桜の木。4月になると実が膨らみはじめ、今年もたくさんサクランボができました。実が赤くなるのを楽しみにしていた園児たちは保育士に抱き上げてもらい、手をいっぱい伸ばしても届かない木に背伸びしてサクランボ狩り。「おいしい!」と歓声をあげ大喜び。

園庭には柿、栗、みかんの木もあります。栽培法を地域のボランティアの方に教えてもらいながら、果樹園芸と食育の幅を広げる試みです。

地域のボランティアもバックアップ



生野署員の指導で道路の渡り方など

東生野保育所は5月23日、生野警察署署員の指導で4・5歳児対象に交通安全教室を実施しました。同保育所の庭に道路を再現し、園児たちが道路の正しい渡り方や標識の見方など交通ルールの理解を深めるのが目的です。普段は大人と一緒に行動することが多いため、自ら交通ルールを意識し、通行や事故への理解は難しいように感じられましたが、「みんなのつつかない命を大切にしましょう」との署員の言葉が印象的でした。

4・5歳児対象に 交通安全教室

東生野保育所



27年度 決算報告

【事業活動収支計算書】

勘定科目		本部	保育園	高齢者施設	公益事業	内部消去	合計
サービス活動収支	収益	0	1,189	3,406	55	0	4,650
	費用	43	989	3,137	47	0	4,216
サービス活動増減差額		△43	200	269	8	0	434
サービス活動外収支	収益	16	8	31	0	0	55
	費用	49	10	38	2	0	97
サービス活動収支差額		△33	△2	△6	△2	0	△42
経常増減差額		△76	197	263	7	0	392
特別収支	収益	77	42	165	76	△293	67
	費用	30	45	214	14	△293	10
特別増減差額		47	△2	△49	62	0	57
当期活動増減差額合計		△29	195	214	68	0	448
前期繰越活動収支差額		326	752	2,849	107	0	4,034
その他の積立金取崩額		0	0	112	0	0	112
その他の積立金積立額		0	136	49	0	0	185
次期繰越活動収支差額		297	811	3,126	175	0	4,409

(保育園は認定こども園を含む)

【資金収支計算書】

勘定科目		本部	保育園	高齢者施設	公益事業	内部消去	合計
事業活動収支	収入	16	1,196	3,431	55	0	4,699
	支出	88	955	3,003	36	0	4,082
事業活動資金収支差額		△72	241	428	19	0	617
施設整備等収支	収入	0	37	9	0	0	46
	支出	1	100	339	81	0	521
施設整備等資金収支差額		△1	△63	△330	△81	0	△475
その他の活動収支	収入	82	8	349	77	△330	186
	支出	66	183	336	15	△330	270
その他の活動資金収支差額		16	△176	13	62	0	△84
当期資金収支差額合計		△57	2	112	0	0	58
前期末支払資金残高		163	178	1,474	35	0	1,851
当期末支払資金残高		106	180	1,587	35	0	1,908

(保育園は認定こども園を含む)

【貸借対照表】 成光苑全施設 (社会福祉事業・公益事業)

平成28年3月31日現在 単位:百万円

勘定科目	金額	勘定科目	金額
流動資産	2,346	流動負債	768
		うち1年以内借入金・賞与引当金	330
固定資産(基本財産)	6,115	固定負債	2,082
その他の固定資産	3,253	負債合計	2,850
		純資産の部	
		基本金	609
		国庫補助金等特別積立金	2,629
		その他の積立金	1,218
		次期繰越活動収支差額	4,409
資産合計	11,715	純資産合計	11,715

脚注

1. 減価償却累計額 3,301,146,761円

28年度 資金収支予算

【資金収支計算書】

成光苑全施設 (社会福祉事業・公益事業) 単位:百万円

勘定科目		本部	保育園	高齢者施設	公益事業	内部消去	合計
事業活動収支	収入	11	1,183	3,395	53	0	4,642
	支出	40	988	3,113	36	0	4,177
事業活動資金収支差額		△29	195	282	17	0	465
施設整備等収支	収入	0	29	5	525	0	559
	支出	0	72	791	532	0	1,395
施設整備等資金収支差額		0	△43	△786	△7	0	△836
その他の活動収支	収入	91	0	521	1	△3	610
	支出	0	14	24	4	△3	39
その他の活動資金収支差額		91	△14	497	△3	0	571
予備費		0	138	0	0	0	138
当期資金収支差額合計		62	0	△7	7	0	62
前期末支払資金残高		144	182	1,498	32	0	1,856
当期末支払資金残高		205	182	1,491	39	0	1,918

(保育園は認定こども園を含む)

フィリピン出身スタッフ、見事介護福祉士に合格



EPA(経済連携協定)に基づく介護福祉士候補生のフィリピン出身、ラモスさんが今年3月、介護福祉士国家試験に見事合格しました。また同時に、同じフィリピン出身で日本に帰化(昭和61年)した原田麻里さんも介護福祉士に見事合格、お二人のさらなる活躍と成長が期待されます。

ラモスさんは24年11月に来日、吹田電ヶ池ホームへ入社、介護福祉士を取得するため、デイサービスで仕事のかたわら日本語学習など3年間頑張ってきた。家族から離れた生活に不安もあったと思われませんが、努力が実りスタッフも喜んでます。

また、原田さんはグループホーム 舞夢に勤務。すでに介護職経験15年という成光苑の外国人スタッフのパイオニアです。在日外国人の介護の日本語教室「つぼみの会」(舞夢)やグローバル介護職員初任者研修のリーダーとして信頼されています。

ココリス (多機能型事業所) 4月オープン!

児童発達支援、生活介護各定員10名

多機能型事業所「ココリス」が4月1日、オープンしました。児童発達支援事業と生活介護事業それぞれ10名の定員で実施、現在12名のスタッフで支援をしています。

児童発達支援は、社会性や協力することの大切さを経験してほしいとの思いから、遊びを通して社会的スキルや生活スキルを学べるプログラムを提供します。

空の明るさイメージ シャワー・人口芝で気持ちよく 第二愛育園新館が完成 40名定員増

待機児童の受け入れ態勢整う

第二愛育園で建設が進められていた新館が本園の隣接地に完成し、7月からの定員増(40名増の200名)の受け入れ態勢が整いました。地域の待機児童解消にひと役果たすのが目的です。

新館は空をイメージした明るい園舎で2階建て。愛育園の象徴であるかわいいキリンの門が子どもたちを迎えてくれます。

1階は3歳児、2階は4歳児が使用します。1階テラスにはシャワーが設置され、遊んだあ



【建物概要】
場 所…吹田市長野東13-5
延面積…281.8㎡
建 物…軽量鉄骨造2階建て

とシャワーを浴びさわやかに過ごすことができます。

園庭は、幼児が遊べる小園庭と人工芝を敷き詰めた園庭の2ヵ所。柔かい人工芝生庭園は乳児が寝ころんだり、ハイハイができて気持ちよく、開放的な空間で伸び伸びと安心して遊べるのが特色です。

一津屋愛育園も認定こども園に

一津屋愛育園は4月から、幼保連携型認定こども園に移行しました。認定こども園正雀愛育園(昨年4月から)に続くもので、これまで以上に教育・保育活動を充実させていく方針です。

認定こども園は、幼稚園と保育園の機能を合わせ持つ施設で、教育と保育を一体的に行い質の高い幼児教育を目指し、小学校に就学するときに必要な集団生活などの基礎を作ることを目標としています。

今後一層、地域の子育て支援の場として、また、通園していない子どもや保護者の交流拠点としての役割を果たし、参加しやすい園をめざし情報発信していきたいと思っています。

地域の子育て支援、交流拠点の役割果たす



叙勲祝賀会に480名

森山市長「高岡さんはひたむきな情熱と人柄の持ち主。選ばれた人です」と述べられました。高岡理事長は「日本の福祉を築いた先輩方からご指導をいただき、多くの方々に支えられてきた。皆さんの存在が、この社会福祉法人として厳しき時代に入り、これまで以上に福祉関係者が一丸となり、使命を果たす活動をしていけるよう精進していかなくてはならない」と力強く思いを訴えられました。

生活介護は、医療的ケア対象の方も安心して利用してもらえるよう看護師を配置し、入浴サービスや生活の中に楽しみのあるプログラム作りに配慮をしています。

産声をあげたばかりですが、地域のみなさんの期待に応えるよう努力したいと思います。施設見学も随時受け付けていますので気軽にお問い合わせください。

【問い合わせ ☎06-4862-6922、重村まで】



気軽にお問い合わせを!

28年度 事業計画 災害発生時の福祉避難所として備蓄など対応整備

【中長期計画】

(1) 新規事業 ① 岩戸ホーム 特別養護老人ホーム老朽改築 →平成28年度協議、申請、入札等。平成30年度全面完成予定(平成29年度一部事業開始) ② ライフステージ 舞夢 新規特養(地域密着型)の開設 →舞鶴市との協議段階 (2) 地域貢献事業の活性化	① 地域貢献事業推進担当者の設置等の体制整備による内容の充実化 ② 高齢者部門全施設における相談窓口設置による地域ニーズの把握 ③ 訪問型支援等、子育て支援事業の充実に向けた体制整備 (3) 組織体制の整備等	① 社会福祉法人制度改正に伴う体制整備 ② 日本経営品質賞の考え方に基づく組織体制の整備 (4) 人財育成・確保体制 ① 高齢者部門の人事考課の見直し ② 保育部門のキャリアパスをイメージした研修体制の構築 ③ 人財確保体制・活動内容の再検討
---	---	--

I. 事業方針等

【法人】

① 事業の展開に伴う法人全体の事業状況の把握及び財政基盤の安定を図るための経営分析 ② 社会福祉法人としての公益的な活動の推進 全施設における地域貢献事業の充実として、中間的就労等の受入や生活困窮者への支援として基金への拠出やCSWの配置等の体制整備をさらに進めていくとともに、各施設での活動のさらなる充実を進めていく。	③ 地域の福祉ニーズに対応したサービスの提供 全世代への福祉サービスの提供として障がい者・児への支援体制を整備(障がい福祉施設の開設) ④ 組織体制の充実・整備 平成29年度の社会福祉法人制度改正に向けた組織体制の整備の一環として、法人本部体制の強化とあわせ、日本経営品質賞の考え方に基づく組織体制の整備	をプロジェクトとして進めていく。また、人財確保が困難な現状も踏まえ、労働環境の改善として、給与規程・就業規則等の見直しや義務化されたストレスチェックを実施。 ⑤ 法人理念の明確化(「和顔愛語」)及び周知の徹底 ⑥ 適切な情報開示
--	---	--

【高齢者部門】

① 岩戸ホーム老朽改築に向けた準備体制の整備 平成29年度一部完成、平成30年度全面改築完了予定 ② 在宅サービス充実への取り組み 京都・大阪の各エリアにおいて、サ高住の開設や定期巡回随時対応型サービスの提供等により地域包括ケア	に向けた活動への参画を進める。 ③ 地域の福祉ニーズの把握 各施設における総合相談窓口設置について地域等への周知方法の再検討や地域住民へのアンケート等を実施。 ④ ISO9001システムの2015規格への移行	規格改定に伴う文書・体制等の見直し、研修会の実施等。 ⑤ 人事考課制度の見直し 施設長評価を全面改定し、平成28年度試行、平成29年度より運用開始。
---	---	--

【保育部門】

① 子ども子育て新システムの導入に伴う体制整備の継続的な検討 ② 女性の社会参加を支援するための保育サービスの提供 ・延長保育事業、一時預かり事業、学童保育事業(自主事業)、日曜・祝日保育事業(自主事業)の実施等 ③ 地域子育て支援に関する事業の充実	子育て支援対策委員会を定期的に開催し、独自に作成した健康やあそびに関するハンドブック、絵本通信等の無料配布等、地域の子育て中の家庭及び妊婦に対する情報発信を強化 ④ 地域の福祉ニーズへの対応 全園にスマイルサポーター(地域貢献支援員)を配置し、	育児を中心とした相談窓口を周知するとともに、認定子ども園における利用者支援事業の充実として、随時対応できる体制を整備する。 ⑤ 第三者評価受審に向けたマニュアルの全面的な見直し(検討会の設置)
--	--	---

【障がい部門】

① 法人内外の関連機関と連携 関連事業所との関係構築を進め、特に、児童発達支援は、法人内保育部門と連携して支援体制を整備する。	② 地域の福祉ニーズへの対応 地域のニーズを把握し、対応できる体制を整備する。
--	--

II. 処遇方針等

個人の尊厳を旨とし、個々の利用者の心身状態に応じた最善のサービスを提供するとともに、常にサービスの質の向上を念頭に置いた体制を整備する。各部門において、以下の事項を重点項目として活動を展開していく。

【高齢者部門】

① サービスの質の向上のためのISO9001システムの運用 管理の徹底 ② リスク管理/事故予防体制の充実	③ 高齢者虐待防止に関する体制の強化(チェックリストの作成及び振り返り・評価等の実施体制を整備) ④ サービスの外部監査・内部監査の実施による評価・確認	体制の整備 ⑤ 全施設における認知症ケアの充実のための体制整備
---	---	------------------------------------

【保育部門】

① 幼保一体化に向けての保育・教育内容や行事のあり方の検証 ② 保育サービス等に関する自己評価の実施 ③ リスク管理体制の整備(安全管理マニュアルの見直し、	苦情要望報告書の改定) ④ 給食担当者会議の定期開催等による食事・食育の充実、アレルギー児への対応等の検討 ⑤ 障がい児の積極的な受入	法人内の児童発達支援事業所との連携を強化しさらなる充実を図る。 ⑥ 児童虐待防止に関する体制の強化(研修の実施) ⑦ 家庭的背景に課題のある子どもへの支援の検討、体制の充実
--	---	--

【障がい部門】

① 障がい特性に応じたサービスの提供(医療的ケア、入浴サービス、状態に応じた食事の提供)	② 各関連機関と連携したサービス提供
--	--------------------

III. 人材育成及び研修体制

利用者の自立・自律・安心・安全だけでなく、変化するニーズに対応し、さらにその人の可能性を伸ばすサービスの展開を図るために必要な学ぶ機会を確保できるよう育成システムを整備する。	法人全体としては、次世代を担う幹部職層の育成を引き続き平成28年度も重点課題とし、研修体制を構成していくこととする。 (※詳細は4～5面参照)
---	--

IV. 人財確保体制

福祉人材の確保については、労働力人口の減少や他業種への人材流出も懸念される中、人材確保及び育成体制等の充実や労働環境の整備は、より総合的・中長期的な視点で取り組むことが肝要だと考える。平成28年度についても、従来より取り組んできた就職フェアへの参加や学校訪問等だけでなく、以下の事項を中心に活動を展開していくこととする。 ① ホームページ・インターネット・パンフレット等を活用した求人活動 平成27年度に全面改定した法人全体の採用情報ページの運用管理と合わせ、高齢者部門各施設のホームページもリニューアルするとともにアクセス解析等の体制も整備。また、求人に関するパンフレットを新たに作成する等、採用に関する情報の発信体制を拡充する。	② 優秀な実習生を雇用へつなげる取り組み 実習生を採用につなげる体制の整備として、実習受入や終了後の学生のフォローアップに関するマニュアル等の作成、また、就職活動等に関する情報収集及び実習の満足度調査としてアンケートを実施する。 ③ インターンシップの積極的な受入 高齢者部門の施設(主に京都北部)において、介護福祉士等養成校との連携強化及び当該学生への魅力発信を目的とし、1ターン・Uターン希望者のインターンシップの受入体制を強化する。
--	--

V. 情報開示・提供

社会福祉法人は、自らの事業や公益的な活動等の情報を積極的に社会に発信し、社会や地域からの理解と信頼が高められるよう取り組んでいく必要がある。成光苑においては、以下の事項を中心に情報開示を進めていく。 ① ホームページによる現況報告書・総括表等の情報開示	② 法人広報誌「ききょう」の発行(年3回)による法人情報の公開 ③ 第三者評価受審及び結果の開示(各施設のホームページから結果の公表) ④ 経営協 経営情報開示システムでの情報開示
---	--

新人、中堅、管理者別に研修、日常保育のマニュアル化

保育新規採用21名対象に新人研修

「和顔愛語」の周知やマナー、人権など学ぶ

成光苑では4月23日、愛育会館3階ホールで新規採用者21名を対象に、保育士、保育教諭としての基本的な心得や知識を身につけることを目的に、新人研修を実施しました。

各愛育園の主任、主幹が講師となり、「優しい笑顔、思いやりの言葉」を示す福祉の原点「和顔愛語」の理念やマナー、子どもの人権やアレルギー対応などの平常保育、保育で



使用する書類の書き方について、寸劇も交え楽しい研修が行われました。
初めのうち緊張気味だった新人スタッフも、自己紹介やグループワークで意見を出し合うなかでリラックス、場の空気も和やかになりました。担当の主任や主幹も人に伝えることの難しさを改めて感じるなど、ともに学び合う有意義な場となりました。

保育施設28年度研修計画

キャリアパスをイメージした研修体制を構築、法人研修では新人スタッフ、中堅スタッフ、管理者(主任・主幹、園長)にそれぞれ区分し実施する。

次世代育成を念頭に28年度から、新たに主任・主幹を講師に新人職員研修を実施。中堅スタッフが企画するマニュアル検討会で階層別にマニュアルの見直し作業を行う。日常の保育を振り返りマニュアルの統一化、保育の標準化を進める。

研修名	対象者・回数	内容
7ヶ園合同研修会	全スタッフ年1回 (新規採用スタッフ含む)	年度ごとにテーマを設定し、外部講師による講義等も含め、全園スタッフ及び新規採用者が参加。
新人研修 (※平成28年度新規)	新規採用スタッフ 年1回	各園の主任・主幹が講師となり、①心得・マナー、②平常保育、③記録等の3つのテーマを設定し研修会を実施。
立腰・漢字教育等研修	①新規採用スタッフ年1回 ②中堅スタッフ年1回	立腰・漢字・百珠算盤等を導入するにあたり、スタッフの指導力の向上を目的とする(基礎編とステップアップを目的とした内容とに区分して実施)。
スイミング研修	新人及び2～3年目の者年1回	実技等を通して、初級レベルの指導方法や安全基準について学ぶ。
リズム研修	①新人及び乳児担当者②幼児担当者	子どもへのリズム指導のスキルアップを目的として実施。
音楽指導研修	中堅スタッフ 年1回	現場で活用できる音楽指導方法等について学び、新人スタッフへの指導につなげる。
体育指導研修	中堅スタッフ 年1回	現場で活用できる体育指導方法等について学び、新人スタッフへの指導につなげる。
コミュニケーション研修	中堅スタッフ年1回	部下指導を目的としたコミュニケーションの手法等について学ぶ。
障がい児研修	全スタッフ年1回	障がい児保育の充実に向けた専門的知識・対応方法等の獲得。
公開保育	担当園が開催 年1回	法人内の担当園が主催し、保育の見学及び情報交換を実施。自園の保育を見直す機会とする。
マニュアル見直し検討会 (※平成28年度新規)	①園長②主任・主幹③中堅スタッフ 各2ヶ月/回以上	第三者評価受審に向けて、各階層別に分担し、現状のマニュアルの全面的な見直しを行うことを通じて保育の質の向上、保育の標準化を図る。
子育て支援対策委員会	子育て支援担当者 2ヶ月/回	地域子育て支援事業の充実のため情報共有、協働活動を実施。地域の子育て中の家庭に対する情報発信として絵本通信を発行。
給食担当者会議	給食担当者 年4回(予定)	子どもへの食事の提供の充実のための情報共有等を行うとともに、給食担当者の業務の効率化の検討や衛生管理体制の確認等を行う。
主任・主幹会議	主任保育士・保育教諭 2ヶ月/回程度	第三者評価受審に向けてマニュアルの見直しや自己評価等の項目の検討を行う。
園長検討会 (※平成28年度新規)	全園長 2ヶ月/回程度	制度改定の動向を踏まえ、教育・保育内容の見直し等、各園での課題等を抽出し、管理者として情報共有を図り、改善に向けた検討を行う。

新人交え124名参加 外部講師招き 愛育園7ヶ園合同研修

愛育園7ヶ園合同研修会が外部講師の辻井 正(NPO法人国際臨床保育研究所)、原坂一郎(〈株〉KANSAIこども研究所)の両氏を迎え、3月29日、ホテル阪急エキスポパークで開かれました。研修には124名の保育士、保育教諭が参加。

高岡國土理事長がまず基調講演、少子高齢化が進む中、社会福祉法人として地域貢献をどのようにするかが課題と指摘さ

れました。引き続き辻井氏は、豊かな会話が知識につながるアクティブラーニングについて、原坂氏は、保育の実践にすぐ取り入れることができる内容。保育士、保育教諭は、子どもたちにできることを日々考え、保育に生かしていくことが重要と思われま

す。新年度から一緒に仕事する内定者(新人)を交え、愛育園のスタッフが一堂に集まる年1回の大きな研修会となりました。

保育施設27年度 研修報告

平成27年度より保育業界においてもキャリアパス制度が導入されたことに伴い、体制を整備。新たに部下指導をテーマとした中堅研修を新たに加えるなど、経験年数等に応じた研修内容で実施。その他にも、保育スタッフのみでなく、給食の充実・食育・食物アレルギーへの対応として、給食担当者会議を継続して実施。平成27年度は食育計画を重点項目とし、振り返りの体制等について検討した。

	研修名
4月	園長会① 子育て支援対策委員会①
5月	スイミング研修①② 給食担当者会議① リズム研修①
6月	音楽指導研修 漢字教育研修① 園長会② 主任・主幹会議① 体育指導研修 子育て支援対策委員会②
7月	漢字教育研修② 主任・主幹会議②
8月	子育て支援対策委員会③ 園長会③
9月	主任・主幹会議③ 子育て支援対策委員会④
10月	園長会④ 公開保育(一津屋) コミュニケーション研修
11月	給食担当者会議② 臨時園長会 主任・主幹会議④ 中堅職員研修
12月	障がい児保育研修 園長会⑤ 3法人合同研修 主任・主幹会議⑤
1月	臨時園長会② 子育て支援対策委員会⑤ 主任・主幹会議⑥
2月	臨時園長会③ 園長会⑥ 子育て支援対策委員会⑥
3月	主任・主幹会議⑦ 臨時園長会④ 7ヶ園合同研修会



効率的・効果的研修の運営、認知症ケア研修テキスト作成

高齢者施設27年度研修報告

「新人育成プログラム」についても見直しを行い、チューター制度の運用及び新人指導体制の充実を図るとともに、中級研修は、受講対象者を「入職3～6年目の者」に変更して実施。認知症ケア研究会では、認知症基礎研修の教材の作成及び研修体制について検討。その他にも、規模を拡大して実施した第11回研究発表会や外国人労働者への教育体制の整備をさらに進めた1年であった。

	研修名	講師
4月	新人職員基礎研修(4/1～3)	全体
	人事考課者研修	大阪
	栄養士会・人権研修・つぼみの会	京都
5月	つぼみの会	京都
	救命救急研修	大阪
6月	ケア24委員会研修・つぼみの会	京都
7月	栄養士会	京都
	つぼみの会	京都
8月	ケア24委員会研修・中途採用者基礎研修・つぼみの会	京都
	認知症ケア研究会	全体
	中級研修アツクアツク研修(大阪)	全体
9月	つぼみの会	京都
	ケア24委員会研修	京都
10月	つぼみの会	京都
	中級研修アツクアツク研修(京都)	全体
	オールジャパンケアコンテスト	他法人
11月	中途採用者基礎研修・つぼみの会・ケア24委員会研修	京都
	チューターステップアップ研修	全体
12月	つぼみの会・つぼみの会交流会	京都
	認知症ケア研究会	全体
1月	つぼみの会(受験対策講座3回)	京都
	新チューター養成研修	全体
2月	人権研修・栄養士会・つぼみの会	京都
	新人ステップアップ研修	全体
3月	研究発表会	全体
	つぼみの会・ケア24委員会研修	京都
	認知症ケア研究会	全体

～先輩からのメッセージ～

チューターに学んだ社会人としての心得
自分も後輩を支える身になりたい



牧野 純也
サンヒルズ紫豊館
平成27年度入社

サンヒルズ紫豊館に勤務して早や1年、この仕事を続けられているのは、私を温かく支えてくれたスタッフのお陰です。特に、チューター(教育係)として担当された先輩からは、入社直後から様々なことを教えてもらいました。介護の基本や言葉遣いはいうまでもなく、社会人としての心得も学びました。振り返ると、介護技術も進歩したと自分なりに感じます。先輩から学んだことを忘れず、次は自分がチューターとなって後輩を支えていきたいと思えます。

漢字あそびなど可能性引き出す保育に感銘
子どもの成長身近に感じ、充実した日々



齊藤 愛衣理
一津屋愛育園
平成27年度入社

私が成光苑(愛育園)を選んだ理由は、乳幼児期から漢字あそび、動きのリズム、言葉あそび、体育活動などへの取り組みを通して、子どもたちの可能性を引き出し伸ばす保育方針に感銘を受けたからです。愛育園を見学したとき、子どもたちが生き生きと園生活を楽しんでいる姿を見て、働くならここだ、という思いが強くなりました。優しい先輩にも支えられ、元気いっぱいの子どもの成長を身近に感じ、保育者として充実した日々を過ごしています。

高齢者施設28年度研修計画

中途採用者の増加に対応、新人研修は、I法人研修、II地域別研修、III施設内研修—の3段階に区分し実施。法人全体研修が各施設の研修内容などと重

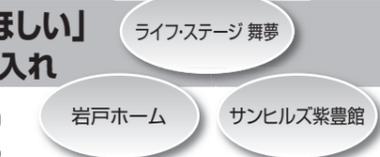
複しないよう効率的・効果的な研修の運営を目指す。認知症ケア研究会では、法人独自の認知症ケア研修テキストを作成、認知症ケアマッピングを実施。研究発表会の開催や外国人労働者への教育体制の整備を継続して進める。

研修名	対象者/回数	内容
新人職員基礎研修	入職1年未満の新人スタッフ I：①主に新卒者:4/1・2 ②中途採用者対象:10月頃 II：年3・4回(1日) III：各施設で設定	・基礎研修Ⅰ：求められる人材像、ビジネススキルの基礎、マナー、法人の各種取り組みへの理解等 ・基礎研修Ⅱ：法人の仕組み、活動の基礎、人権擁護、リスクマネジメント等 ・基礎研修Ⅲ：各施設内組織図と役割、ルール、備品や機器の使い方、手順等の説明
新人ステップアップ研修	基礎研修を受講した者(1日)	・1年間の振り返りと2年目へのステップアップ
チューター養成研修	新人スタッフを主に育成・サポート・評価する者(2日)	・新人スタッフを指導するための教授法 ・部下指導のためのコミュニケーションスキル ・新人職員研修プログラムの使い方等
チューターステップアップ研修	OJTに関わり6か月が経過したチューター(1日)	・チューターとしての課題抽出とステップアップ ・モチベーションアップのための講義
チューターリーダー研修(中級研修)	チューターをサポートする者(1日)	・チューターをサポート、アドバイスするスキルの取得 ・部署スタッフ間の調整能力の向上
状況対応能力向上研修(中級研修)	中級役職者(1日)	・インバスケットのスキルの体験 ・仕事の優先順位を考えた状況対応能力の向上
認知症ケア研究会	各施設代表者・マップパー有資格者	・認知症ケアマッピングを実施 ・法人独自の認知症ケア研修の教材を作成

「介護の仕事の素晴らしさ知ってほしい」 3施設合同インターンシップ受け入れ

成光苑京都3施設は合同インターンシップ(4日間コース)を企画し、3月には京都北部に興味を持つ学生2名を受け入れることができました。日常的に情報交換を図っている京都市内の介護福祉士養成校の協力も得て実施したものです。

介護人材確保は国にとっても大きな問題になっていますが、成光苑でも事業拡大に伴い喫緊の課題。施設の近隣に教育機関があり、実習生に介護現場(施設)を見学してもらいやすい都市部と違い、京都北部ではUターン学生も年々減少するなど地域事情があり



ます。今回のインターンシップ実施で、成光苑京都へ行けば高齢者福祉のあらゆるサービスを見学することができるという強みがあります。また、施設の受入担当者が介護の仕事のすばらしさや成光苑の取り組みを熱く語っているのを見ると、スタッフの成長にもつながる機会と思われます。今後もインターンシップ参加を積極的に働きかけ「ここで働きたい!」と言われる施設づくりを目指す方針です。

「生活困窮者支援」など現場を見学

大阪自彊館の施設訪問し特別研修

ライフ・ステージ 舞夢

ライフ・ステージ 舞夢では、恒例の特別企画研修として5月10、11の両日、「社会福祉法人 大阪自彊館」の施設見学を兼ねた研修会を行いました。

研修テーマは「低所得者救済」「生活困窮者支援」などがキーワード。大阪自彊館の川端 均理事長から法人のあゆみや事業内容の説明を受けたあと、「あいりん地区」(大阪市西成区)を移動しながら、同法人運営の救護施設や障がい者施設、無料宿泊所、NPO法人運営のシェルターなどを見学しました。

この地域は日雇い労働者が多く、景気の波によって施設利用者の増減が激しいとのこと。公園では毎日のように炊き出しが行われ、低料金の宿泊施設が立ち並んでいます。

この研修を通し、福祉の原点について学ぶことができたように思います。

27年度 事業報告

地域の福祉ニーズに対応したサービスの提供

I. 重点項目に関する事業活動報告

【新規】は、平成27年度新規事業等

【法 人】	【法 人】
①事業展開に伴う法人全体の事業状況の把握及び財政基盤の安定を図るための経営分析	・法人本部体制の強化として、本部人員を増員し、役職者の配置等の検討をした。
②社会福祉法人としての公益的な活動の推進	⑥適切な情報開示 情報開示に対応するための法人運営に関する情報の整理。
③地域の福祉ニーズに対応したサービスの提供等 ・地域のニーズを把握するために膳施設に相談窓口を設置。	⑦法人間連携の強化
④法人理念の明確化(「和顔愛語」)及び各施設において周知活動を展開	他法人との勉強会(5法人合同研修会等)への参加や事業所近隣の他法人等との育成・研究の場を共有する機会の確保として合同での研究発表会の開催等。(※11面研究発表会の記事参照)
⑤組織体制の充実・整備 ・日本経営品質賞の考え方に基づく活動を推進するため、高齢者部門の各施設の代表者が勉強会に参加し、今後の中長期計画を立案。	

【高齢者部門】

①岩戸ホーム老朽改築に向けた準備体制の整備 【新規】	【新規】及びサービス付高齢者住宅の開設に向けた検討会を実施(大阪)
②在宅サービス充実への取り組み ・地域包括ケアに向けた活動として、他法人と合同での検討会(ケア24委員会)の実施(京都) ・高槻けやきの郷における定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業の開始	③介護保険事業の利用契約書の見直し等 平成27年度の介護保険制度改定への対応も含め、全事業について部署別に共通の利用契約書とするため全面改訂。

【保育部門】

①子ども子育て新システムの導入に伴う体制整備 全園の確認申請の届出完了。正雀愛育園については、「認定こども園 正雀愛育園」への移行が完了し、名称変更(【新規】)。各種規程等(運営規程・園規則・重要事項説明書・利用契約書等)については、平成27年4月1日に施行。また、新制度に基づき、保育部門における法令遵守責任者を新たに配置。	・第二愛育園本園の定員増(145名⇒160名) 【新規】 ・くすみ愛育園の定員増(45名⇒48名) 【新規】 ・くすみ小規模保育園の地域型保育事業所(小規模保育A型)への正式移行及び定員増(15名⇒19名) ・延長保育事業、一時預かり事業、学童保育事業(自主事業)、日曜・祝日保育事業(自主事業)の実施
②地域における待機児解消に向けた事業展開及び受入体制の整備 ・第二愛育園分園ひよこ園を千里丘愛育園分園への移行及び定員増(15名⇒20名) 【新規】	

【障がい部門】

①多機能型事業所の開設(生活介護:10名/児童発達支援:10名) 【新規】 ・指定申請のための準備 ・摂津市のニーズ調査等の実施。	=入浴設備の追加、医療的ケアが提供できる体制の構築、一津屋愛育園と連携した食事提供
---	---

II. 処遇方針等

【高齢者部門】

①サービスの質の向上のためのISO9001システムの構築 適用範囲の拡大及び更新(平成27年4月受審し拡大完了)	③サービスの質の向上のための顧客満足度調査の実施(各施設)
②リスク管理/事故予防体制の充実 ・医療リスクプロジェクトによる活動 ・各施設における不適合サービスの重点改善項目の設定	④サービスの外部監査・内部監査の実施による評価・確認体制の整備 法人内高齢者全施設の第三者評価受審完了 ⑤全施設における認知症ケアの充実のための体制整備(※5面研修報告参照)

【保育部門】

①幼保一体化に向けての保育・教育内容のあり方の検証 記録(月案・週案等)の見直しを進め、法人内統一様式に改定及び自己評価等の結果に基づく検証を実施	③食事の提供・食育の充実(給食担当者会議を年3回実施)
②リスク管理体制の整備(安全管理マニュアルをはじめとするマニュアルの見直し)	④障がい児の積極的な受入 保健師による巡回指導や障がい児研修等の実施による支援体制を構築 ⑤家庭的背景に課題のある子どもへの支援の検討、体制の充実(児相、警察等との連携)

III. 人財育成及び研修体制

平成27年度からは高齢者・保育部門ともに次世代の人財育成を視野に入れ、高齢者部門では部長・課長が施設の代表として研修会に参加、保育部門についても主任・主幹が集まって協議検討・情報共有の機会を確保する体制を構築した。(※4～5面研修報告参照)
--

IV. 人材確保体制の整備

就職フェアへの参加等の従来の活動だけでなく、新たな魅力発信のため、ホームページ「採用情報」の全面改定(平成28年3月リニューアルオープン)をはじめ、写真集(「介護男子」)の企画への参画等、就職フェアでのブース装飾の見直しを進めた。正規スタッフの採用結果については、高齢者施設16名、保育部門21名、障がい部門4名。	・特定の養成校の学生を対象にしたインターンシップの実施(京都)
①ホームページ・ネット・冊子等を活用した求人活動	③スタッフの定着に向けた職場環境の整備(諸規程の見直し等) 子ども扶養手当の支給及び介護一時手当・夜勤手当の見直し(高齢者)、処遇改善手当の改定(保育)
②優秀な実習生を雇用へつなげる取り組み ・実習生受入マニュアル等の作成やアンケート調査の実施	④その他の活動 ・高齢者施設における高卒者の積極的な採用 ・学内フェア、企業主催フェア等への出展数の増加

V. 情報開示・提供

①ホームページによる現況報告書・総括表等の情報開示	③第三者評価受審及び結果の開示(各施設のホームページから結果の公表)
②法人広報誌「ききょう」の発行(年3回)による事業報告・計画、予算・決算等の掲載	④経営協 経営情報開示システムでの情報開示

高齢者施設

障がい者の雇用・就労場所の確保など社会的自立を支援

子育て支援の情報発信強化、スマイルサポーター全園に配置へ

保育施設



「地域だより」を発行

健康・介護や施設のイベント情報を発信

高槻けやきの郷

高槻けやきの郷では4月から地域向けの新聞「地域だより」の発行を始めました。地域の方が集まる“ふれあい喫茶”で配布するほか、自治会の回覧板に入れてもらうなど浸透を目指しています。

内容は、看護師から季節ごとの病気の流行状況や気候変化に対応して体調を保つ情報の提供、栄養士からふるさと（郷土）料理の紹介など生活に役立つ健康・介護情報、さらに施設のイベントも掲載しています。

地域の方から「高槻けやきの郷のことをもっと知ることができる新聞みたいなものがないか」との意見が寄せられたのが「地域だより」発行のきっかけです。かかりつけ医師ならぬ“かかりつけ施設”として、地域のみなさんの健康や介護を支える役割を果たせるよう一層の内容充実を図る一方、多くの人の手に渡るようネットワークづくりを進めたいと思っています。

摂津高校から「傾聴ボランティア」 学生さんがご利用者と交流

大阪府立摂津高校の教諭と学生が3月24日、「傾聴ボランティア」活動の目的で、せつつ桜苑を訪れてくれました。

摂津高校は桜苑のそばにあり、これまでも施設見学や和太鼓演奏、ダンス披露のため来苑、桜苑からは学校の文化祭見学に出かけていますが、ご利用者と学生が直接触れあう交流は今回が初めて。

学生さんたちは特別養護老人ホーム・デイサービスのご利用者として楽し



いひと時を過ごされました。「私たちの若い頃はね…」などと話はずみ、「若いんだからこれからよ!」とご利用者から温かい励ましの言葉をかけられ、学生さんの心に響いたようです。「緊張しましたが、よい時間を過ごせました!」と喜ばれ、充実した世代間交流につながりました。

介護者を孤立させない活動を継続的に 男性のための料理教室など

吹田市片山・岸辺ブロック介護者支援の会

「吹田市片山・岸辺ブロック介護者支援の会」は「地域で介護者を孤立化させない!」を合い言葉に継続的に活動を行っています。

今年は、簡単に作れる男性のための料理教室(1月31日、岸二公民館会場)を開いたのを皮切りに、ブロック内各施設の管理栄養士の指導による料理教室と吹田市歯科医師会長による「食事について」をテーマにした講演(3月5日、山手公民館会場)、吹田竜ヶ池ホームでは『カフェ・サロン』(5月19日)を開催し、同時に福祉用具の展示紹介も行いました。

片山・岸辺ブロックは吹田市の6つのブロックの一つ。地域の方が多数参加され、アンケートでは困りごとや企画について貴重な意見も寄せられ、今後に生かしたいと思えます。

27年度地域貢献事業報告

高齢者施設は地域の総合相談窓口として対応・周知を継続的に推進。保育施設では地域貢献支援員スマイルサポーターを全園に配置し、育児相談などに対応できる体制整備を進める一方、子育て支援担当者が定期的に地域への情報発信活動を展開(「絵本通信」の発行など)する。

高齢者部門	保育部門
【地域に焦点を当てた事業展開】	
<ul style="list-style-type: none"> 交通弱者の移動支援の取り組み(過疎地域有償運送)の運行(4往復/日) → 延べ利用者数: 2461名 福祉有償運送(移動困難者に対して安価での移動支援)の活発な運用 地域行事への積極的な参加及び地域との共催による行事の実施(夏祭り、陶芸教室等) 介護教室・介護予防教室の実施・リハビリ機器を利用した訓練の実施等施設資源の開放 地産地消の取り組み 地域交流スペースの開放や喫茶等の運営 高齢者涼やかスポットの設置 車椅子や施設備品等の貸し出し 	<ul style="list-style-type: none"> 親子教室での年齢に応じた遊びの提供(製作、リズム、絵本の読み聞かせ等) 各園での保育室、園庭、プール、絵本室等の開放 地域の親子で結成するサークル活動支援として場所の開放 地域の親子への絵本の貸出 近隣の公園や公民館、小学校等で地域の親子への遊びの提供、イベント開催 園の季節の行事への招待及び地域の親子を対象とした独自のイベント開催 赤ちゃんの駅(おむつ替えや授乳ができる施設)の登録 地域が主催するイベントへの参画(和太鼓演奏・手作り玩具の作品展等)
【地域における福祉推進】	
<ul style="list-style-type: none"> 施設における地域の総合相談窓口の設置及びその周知 認知症あんしんサポート相談窓口、認知症カフェ等開設 相談援助活動へのスタッフ派遣及び介護相談会の実施 介護職員初任者研修事業の講師派遣 地域住民に対する介護技術研修の開催 外部主催の認知症サポーター養成研修をはじめとする認知症関連研修への講師派遣 農閑期の閉じこもり防止を目的とした介護予防教室の実施 パソコン教室、スマートフォン利用講座の開催 学校訪問授業として認知症サポーターキッズ養成講座の開催 子ども福祉ボランティアの育成講座の実施 介護、看護、相談援助等の専門職実習生の受入 小中学生の職場体験及び社会福祉体験学習の受入等 こども110番運動への参画 認知症デイ利用者の家族の会の立ち上げ及び地域との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 育児相談の一環として地域の保護者向けに、子どもの健康やふれあい遊び、絵本に関する情報を掲載した通信を自主作成し無料配布 育児相談員およびスマイルサポーター(大阪府知事認定)による育児相談窓口の設置(来所・電話等) 保育士・管理栄養士による専門性を活かした講座の開催(離乳食講座・アレルギー食講座等) 校区福祉委員会主催の子育てサロンへのスタッフ派遣 地域の子育て支援担当者間の情報交換会への参画 一人暮らし高齢者宅の訪問(七夕飾り等の奇贈) 小中学生の職場体験や高校生のインターンシップの受入 地域ボランティアの積極的な受入 保育士養成校からの保育士養成実習の受入
【社会的援護を要する人々への支援】	
<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉法人等利用者負担軽減制度、特別地域加算減免事業、通所サービスの時間外での受入、食費負担軽減 地域の高齢者からの通報に対する24時間365日対応 虐待・DV避難ケース等の緊急受入体制の整備 日本財団「夢の貯金箱」(自動販売機の飲料売り上げのうち10円を寄付)の全施設設置 大阪しあわせネットワークへの参画・基金への拠出 生活困窮者等に対する相談支援事業及びコミュニティーソーシャルワーカーの配置・養成(大阪) 京都地域福祉創生事業「わかプロジェクト」への参画(基金への拠出等) 障がい者雇用の関連機関とのサポートカンファレンスの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 特別保育事業(一時預かり保育、延長保育等)の実施 被虐待児童への関係機関との連携等による支援 大阪しあわせネットワークへの参画・基金への拠出
【国際交流】	
<ul style="list-style-type: none"> EPAによるフィリピン人介護人材の受入(1名)、日本語教育 施設スタッフおよび地域の在日フィリピン人を対象とした日本語勉強会(つぼみの会)等を毎月実施 グローバル介護職員初任者研修の開催 在日外国人(フィリピン、中国)の雇用 	<ul style="list-style-type: none"> 他国籍の子ども・保護者とのコミュニケーション支援
【地域団体などとの連携の取り組み】	
<ul style="list-style-type: none"> 市、市医師会等と連携し地域包括ケアシステムの構築 地区の福祉推進協議会や施設・事業者連絡協議会等への参加による地域連携強化・スタッフ派遣 市の地域貢献委員会への参画 校区のPTAとの協力、自治会活動へのスタッフ派遣 ボランティア団体との懇親会の開催 日本赤十字の企業献血への協力推進 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の老人会・民生委員・主任児童委員・自治会長等との連携(交流会の開催等) 中学校区における地域教育協議会への参加 小学校地区における関係団体との連携した行事の開催 市の保健師と連携し、乳がん健診等の講座の開催や地域の児童の身体測定等の実施 保健センターでの遊びの提供
【災害支援・環境対策】	
<ul style="list-style-type: none"> 自治会等地域との総合防災訓練の実施、防災協定の締結 地域の避難所としての指定、防災倉庫の設置等災害発生時のネットワークの構築 街地豪雨被災時のスタッフ派遣及び生活困窮者の受入 府災害派遣福祉チーム員として府災害時要配慮者避難支援センターの活動への参画 デマンドコントローラーを設置し電力量を管理 一人暮らし高齢者宅の防火訪問 地域の除雪作業の支援 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の草引き・清掃活動への参加 牛乳パック、ベルマーク、エコキャップ運動の実施 グリーンカーテンの栽培 全園における節電活動 エコ育の更なる充実 日本赤十字共同募金への募金 茨城県常総市水害見舞金
【独自の取り組み】	
<ul style="list-style-type: none"> 京都府高齢者あんしんサポートハウス(低所得者に対応した家賃設定)の運営 地域の空き家を高齢者の住まいとして活用しむけての体制構築 近隣の他法人と協働で地域包括ケア推進委員会を設置 外国人介護人材発掘のための関連機関との検討会議や学習会の実施 24時間365日訪問介護事業の取り組み 配食サービスの提供および安否確認 介護保険外での一人暮らしの高齢者への支援(緊急通院の付添、家事援助等) 	<ul style="list-style-type: none"> 365日型(日曜・祝日保育、年末年始)保育の実施 地域の待機児解消に向けた事業展開の検討(分園の開園等)

～親子に絵本の魅力、楽しさを!～

「絵本とともだち(絵本通信)」発行

ポケットサイズ、おススメ本の紹介など 子育て支援対策委員会

愛育園のスタッフが集まる地域子育て支援対策委員会は、絵本の魅力や楽しさを多くの親子に伝えるため、「絵本とともだち(絵本通信)」を昨年度から2回発行、現在、第3版発行の検討に入っています。

絵本通信は気軽に手にしてもらえるA3用紙1枚のプリントを切り折りしたポケットサイズで、初版は、絵本の読み聞かせの魅力や年齢に応じたおススメ絵本を紹介。親子教室参加者を対象に実施したアンケートをもとに、第2版の内容を検討する中で、「親子で気軽に絵本に親しんで欲しい」との意見が挙がり、大人向けの絵本を取り上げたところ、とても好評でした。各園の親子教室では、この絵本通信で紹介した絵本の読み聞かせを行ったり、閲覧できるよう用意しています。

今後も「躰」「大人向け」「季節」の3つのテーマを軸に考えています。この絵本通信を手がかりに、絵本を手に取り心を通わす親子が増えればと願っています。



第3木曜に お年寄りと交流「にぎにぎの会」 第3金曜は「ティーサロン」で保護者と懇談

第二愛育園



第二愛育園が毎月開いている「にぎにぎの会」(第3木曜)と「ティーサロン」(第3金曜)が世代間交流や保護者支援の場として人気を集めています。

「にぎにぎの会」は地域、それぞれのおじいちゃん・おばあちゃんを園に招待し、昔ながらの遊びを教してもらったり、絵本を読んでもらうなどふれあい遊びをします。昼は一緒に給食を食べながら会話がはずみます。お年寄りとの関わりが少なくなっているときだけに、子どもたちの思いやりやいたわりの心を育てる場にもなっています。

「ティーサロン」の目的は、保護者同士がコーヒーと手作りケーキを食べながら、子育ての悩みを話し合ったり、保育士と保護者のコミュニケーションを深め信頼関係を構築するのがねらいです。保護者の方が仕事や子育ての疲れから解放されホッとしてもらえるようティーサロンを生かしたいと思っています。

祭 園児もスタッフも地域の祭りに大活躍 祭

「公民館まつり」5歳児の群読「雨ニモマケズ」に大きな拍手
「こどもフェスティバル」に紙皿のフリスビーなど用意 一津屋愛育園

一津屋愛育園は5月14日、近隣の公民館で開かれた「第29回味生公民館まつり」、翌15日開催の「こどもフェスティバル2016」(摂津市教育委員会主催)にそれぞれ参加しました。

「味生公民館まつり」には5歳児の園児が参加、歌と和太鼓、漢字あそびで取り組んだ宮澤賢治の詩「雨ニモマケズ」の群読を披露しました。力強い和太鼓の演奏や声をそろえて群読する姿に大きな拍手が寄せられました。子どもたちには大きな自信となり今後の意欲につながる経験となりました。

「こどもフェスティバル」にはスタッフが出展参加。天候に恵まれ1万2千人余の来場者で大賑わい、今年は紙皿で作るフリスビーとヤクルトの空き容器で作るマラスの2種類の手作りおもちゃを用意し、多くの親子連れが訪れてくれました。

